

ヤマハ発動機と三信工業

— 理解力が大きくなるためには、いくつかの誤解を持つ事が必要となる —
たえず、「わからないこと」を探して生きる

最初の仕事は、当時ヤマハテクニカルセンター（技術センター）と呼ばれていたように記憶するが、それが実現するまでの、基本構想から基本計画との過程で、設備設計として参加していた。設計は浜松の鷹野設計の高橋一光氏が担当していたが、具体的に異なる規模で次々とFeasibility Studyとして、高層、中層、低層を仮想して行った。

高橋さんとは、1974年、建築設計者であった磐田福祉センターに設備設計で協力していたので、旧知の間柄であった。技術センターは現在ヤマハ発動機本社となっている。印象深いのは、設計の最終プレゼンテーションを当時の小池久雄社長前で予定されていた時に、会場にアメリカから電話があり、社長が中座された後の設備のプレゼンは出来るだけ短くするように司会者から指示された。結果、新築ヤマハビルは30パーセントの省エネルギーという言葉で、新聞発表された。浜松市新橋のマリン関係で製造の三信工業から、1987年以降、田代重司さんの助言の下、工場全体のユーティリティ設備診断を始めとして、その後、1990年のエンジン実験棟、低温実験棟と、新築建物の設備設計を委託された。2002年には中期エネルギー計画にも参画、2005年にはヤマハマリン、袋井の新築工場の計画では、用地選定から、コンペ提案の評価コメント、完成後の検証などを行った。そして、40年に長きにわたり、磐田第5工場、マリン技術棟（新居）、エンジン実験棟（磐田）など、重要な建物の設計に参加できたことは光栄である。



テクニカルセンター 1980



磐田第5工場 1986